



緑道の再整備について

- 再整備の方針として「都筑区緑道再整備ガイドライン」を策定。
- ニュータウンの当初の理念と、現在の社会環境の変化への対応を両立。
- 整備年次の古い第二地区から順次実施
 - ゆうばえのみち (H30再整備完了)
 - せきれいのみち (整備中)
 - ささぶねのみち (R1 設計に着手)



くさぶえのみち・ふじやとのみちは
順次実施予定です。



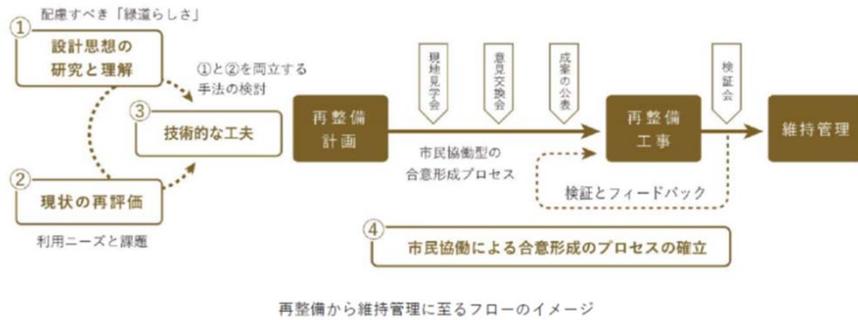
再整備の例

左上：舗装の更新、樹木の間伐
左下：石畳の補修とベンチ設置

右上：スロープや階段に手すり設置
右下：広場の舗装、スツール設置

参考：ガイドラインの内容

・利用者・地域の意見の反映とフィードバック



・施設ごとの改修方法をとりとまとめた

事例2 | 白河石

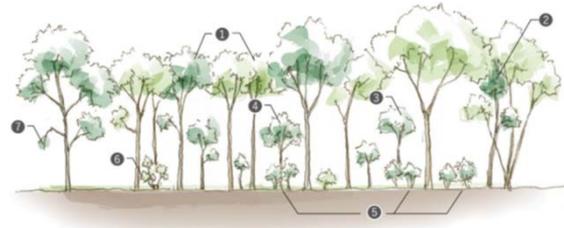


事例1 | 土留め兼ベンチ × 白河石の再利用



- ・ 緑道の象徴でもある白河石を再利用する。
- ・ 多機能（植栽樹）な用途を兼ねる。
- ・ 座面の高さに変化があり、多様な利用者に対応する。
 （足腰が弱り、深く腰掛けると立ち上がりにくい利用者もいる）
- ・ ベンチ機能を兼ねた施設が短い区間ごとにあると、長い距離を歩けない利用者でも休憩を取りながら緑道を利用しやすくなる。

・樹林の管理についても記載



ポイント

- ① 樹冠が接している高木は間伐する（落葉樹：常緑樹=7:3～6:4程度）(※)
- ② 落葉樹の横に入った常緑樹は間伐する
- ③ 将来の高木となる亜高木は樹形のよいカシ、タブなどを残す（高木よりかなり少なくてよい）
- ④ ヒサカキ、シロダモ、マテバシイなどは樹林が強くなるため間伐する
- ⑤ 中低木のシラカシ、アオキなども不要。ただし、目隠しにする場合は残す（常緑樹は高さをコントロールしやすいため）
- ⑥ 伐採後、萌芽したモヤは2～3本残してもよい
- ⑦ 雪などで樹形が乱れた木や枝葉はとりのぞく

※：残す樹木も長期間の過密環境で樹形が乱れている場合があるため適宜剪定する。

山崎公園の樹林地管理について

- ・ 「横浜みどりアップ計画」に基づいて、公園内に保全された雑木林などを管理。
- ・ 管理については全市共通の「横浜市森づくりガイドライン」と、公園ごとの「保全管理計画」を組み合わせる実施。
- ・ 保全管理計画は公園愛護会との意見交換や、専門家のアドバイスを受けてH29年度に策定。

・ 場所ごとの特性に合わせて管理方針を設定

3.3 ソーニング

ソーニングに当たり、山崎公園の安全管理の基本的な考え方を以下に整理する。また、生物情報、専門家からのアドバイス、愛護会の方や横浜市の御意見を踏まえ、安全と利用の観点から、下記の6区分にエリア区分を行った。ソーニングによる各エリアの基本的な考え方について以下に示す。なお、各エリアの概要を「4」エリア区分に示す。

■ 山崎公園の安全管理の基本的な考え方

- ・ 山崎公園の特徴である豊かな自然、野草・樹木などを保全・育成する。
- ・ うっそうとしたイメージをなくし、子どもたちにも親しまれる明るい林地を目指す。
- ・ 生物多様性に配慮し、虫摘りもできるような自然に親しめる里山を目指す。
- ・ 各ゾーンの特徴を活かし、ゾーン毎の変化を案じめるように保全・管理する。



エリア	利用	安全	むら	特徴	課題	対策
1	ギンランの生育する斜面林	●	●●●	ギンランやイチヤクソウ、ジュンランなどの植物が生育する	大径木による、土砂崩出、斜面崩壊の危険性	樹木の伐採（台場掘り、ポイント切）、剪定・伐採木を活用した、植栽（本切り植栽）
2	キンランの生育する法面植栽林	●	●●●	安全対策・キンランなどの生育する樹林の管理	傾斜が深い。大径木による、土砂崩出、斜面崩壊の危険性	目標とする植生（課題）の検討
3	見通しの良い竹林	●	●●●	安全対策・見通しの良い竹林管理	—	竹林が、風速の高いヤマザクラ並木に侵入し分布拡大、下部の草地の斜面崩壊の危険性がある可能性が認められる
4	多様な林床植物の見える落葉広葉樹林	●	●●●	安全対策・キンランやヤマザクラなどの生育する樹林管理・林床管理の実施連携	林床管理には、キンランやヤマザクラなどの植物が多く生育する	剪定の土砂崩出防止対策 林床のヤマザクラ等の生育を促す。キンランなどの生育する樹林管理するエリアを拡大
5	ヤマザクラの復活と生き物に出会える草地	●●	●●●	ヤマザクラの復活・草花の生育と共生する草地の管理	ランドマークのヤマザクラの元気がない	隣から移植させた、若い木の育成、草地の草刈回数を減らすなどのエリア設計上の作成
6	まとまりのある常緑広葉樹林	●	●●●	まとまりのある常緑広葉樹林の保全と管理	他の公園に少ない、まとまりのある常緑樹	周囲のヤマザクラ植栽などへの自然を豊くして、保護に努むる

作業の例（プール脇斜面）



【作業前】

- ・ 樹木が大きくなりすぎ、傾いている（倒木の恐れ）
- ・ 常緑樹が多く、林内が暗い（表土の流出）
- ・ 林内が暗くなり、雑木林の環境が変化（植物生育環境変化）

作業実施（平成31年冬）

- ・ 落葉樹（コナラ等）の背を低くする
- ・ 常緑樹（シラカシ等）は根元で切る
- ・ 切った枝で粗朶（そだ）柵を作る



【作業後】

- ・ 樹高を低く抑え、安全性を高める（切った木から再び芽が出る）
- ・ 粗朶柵で土を止め、植生回復をはかる

山崎公園の改良工事について



じゃぶじゃぶ池

- 漏水、レジオネラ菌対策で、現在は使用できない。
- 復旧には塩素投入装置設置等、膨大な改修費が必要。

→規模縮小・塩素対策不要の「かけ流し」方式で再開する。



広場の桜保全

- 土砂が流れて、桜の根が露出
- 根が踏みつけられ桜に悪影響
- 広場の観戦スペース不足

→広場のふちにベンチをかねた土留を設置し、根を覆土する。